



〒247-0063 神奈川県鎌倉市梶原 3-18-10

TEL:080-7968-0059

E-mail:lgjakamakura@nifty.com

HP:http://www.lovegreenjapan.org/

発行者 鈴木 倫子

編集責任者 木村 雅子

ネパールで30周年記念式典を行いました！



(ラブグリーンネパールのスタッフと役員)

コロナの影響により延期、延期となっていたラブグリーンネパールの30周年記念式典がようやく2022年6月に行われました。当日は、過去に活動と関わりを持った方々も出席され、懐かしい顔ぶれが揃いました。

1991年の設立以来、カブレパランチョーク郡パンチカール盆地にフィールドの拠点を置き、植林、バイオガス装置の導入、農業支援などの活動を展開してきました。その道のりを、30周年記念ビデオで観ながら皆で当時を思い出したり活動に貢献した人々への表彰を行ったりと、農民と共に歩んできた30年の歴史を改めて振り返る時間でした。



パンチカール盆地
(2022年5月)



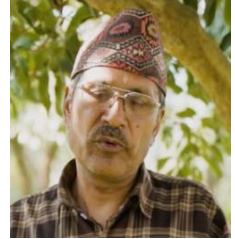
パンチカールから、皆さんへ

ボジ ラジ パンタ氏 (モデルリーダー農家)

1992年にラブグリーンネパールがパンチカールで活動を始めて以来、関わっています。最初は緑化プロジェクトでした。

ここには1983年から住んでいますが、プロジェクトが始まる前、こちら一帯は自然のまま、ほんのいくつかの植物が生えているだけでした。農家はリーダー、サブリーダー、一般農家の3グループに分けられて、森林用材、飼料用材、果樹の苗木が配布されました。植林の事前研修や果樹栽培などの研修も行われて、何千もの農家が受講しました。

今では一家族が生活するのに必要な果物、家畜の飼料、薪炭材を得ることができています。



サラスワティ ペトワル氏 (トゥリコミュニティフォレストグループ代表)



私が活動に加わった頃、ここには松とサラノキが少しあるだけで不毛の土地でしたが、ラブグリーンの植林プロジェクトでたくさんの種類の木が植えられて、今では美しい森になりました。ヒマラヤ桜やマンゴー、ライチ、ジャックフルーツなどの果樹、薬草も植えられています。

ラブグリーンのおかげで森はまだまだ広がっています。

ラクシミ ギリ氏 (モデルリーダー農家)

ラブグリーンのIPM (Integrated Pest Management: 総合的病虫害雑草管理) 農法の研修を受けました。研修では農薬が土にダメージを与えること、虫には害虫と益虫がいて、その区別が重要なことなど、それまで知らなかったたくさんの知識や気づきを得ることができました。

今は尿素肥料の代わりに牛の尿を使ったり、牛の尿から植物性農薬も作っています。肥料や農薬を買う必要もなくなったし、健康にも害がありません。作物もよく育っています。私たち農家の収益が上がることを期待しています。



他にも、「緑化が促進されると水分が保たれるようになった。荒地が蘇った」、「育ってきた木を見たらラブグリーンがやってきたことが分かる」、「研修の種類がいろいろあって、家族で活動に参加できていい」、「事業の期間が終わればそれで終了という支援が多いけど、ラブグリーンは一時的でなくずっと関わってくれている」、など、ラブグリーンに親しみをもって信頼を寄せてくれる住民が多く、長期に亘る関わりの大切さを感じました。

実施中プロジェクトの報告

JICA 草の根技術協力事業 — 独立行政法人 国際協力機構

事業名：カブレパランチョク郡パンチカール市における循環型農業を基盤とした土壌改良および人材育成による持続可能な地域の生計向上体制の構築



いよいよ本プロジェクトは最終年になりました。コロナで遅れ気味であった安全野菜の販売への取り組みが少しずつ進んでいます。2020年コロナ禍で仲買人が村に野菜を買い付けに来ないことがきっかけとなり、それならば自分たちでとキティニ農業組合がカトマンズの市場で野菜の卸売と小売を始めました。そこでラブグリーンから提案して、IPM農法で栽培する安心・安全野菜の専門販売を開始しています。お客さんは近隣の人々で、「美味しくて安いから毎日買いに来る」「安心して食べられる」「レストランでは（野菜の）味がいいと評判です」など、好評です。農家を連れてカトマンズの市場視察した際には、そうしたお客さんの反応を見て、自分が（化学肥料や農薬を使わずに）どのように野菜づくりをしているかを誇らしそうに話す農家の人

もいました。

ネパールの市場では、化学肥料や農薬を使用した野菜と農薬不使用の野菜は、混ざって販売されており、差別化はできていません。「安心・安全」という付加がついて野菜が販売できるようになることを目指して、挑戦は続きます。

■ ゆうちょ財団

事業名：アナイコット コロナ禍 低所得 20 世帯への家畜飼育支援による生計向上
配分金額 100 万円

パンチカール市アナイコットにおいて2年間継続した家畜飼育支援事業が2022年3月終了しました。低所得で牛の飼育が適切に行われていない世帯を対象として、餌場の改良を実施しました。栄養価の高い牧草の配布や栽培、牛への予防接種、牧草裁断機の配布、そしてスタッフがこまめに対象世帯を訪問して指導を行いました。これらの活動を通じて、牛の飼育環境は改善されました。特に餌場については当団体の支援のみでなく農家自身も出資して餌場の



数を増やしています。サントシさん（写真）は、雨の時でも牛が濡れないようにビニールトンネルの下に餌場を作る工夫をしました。この餌場の改良のおかげで、各世帯で牛の飼育頭数を増やすことができ、ミルクの収量が増えました。それに伴い収入も向上したと、農家は喜んでます。

■ 緑の募金 - 公益社団法人 国土緑化推進機構

事業名：「パンチカール市 環境保全、緑化推進のために公園づくり」（カブレ郡）

配分金額 1846 千円

2022年6月パンチカール市でダナラクシエコパークが完成しました。近年、都市部では遊具などもある公園をぽつぽつと見かけるようになってきましたが、まだ農村部では公園というものは見かけません。今回は、地元の若者グループが中心になって地域の共有地に木々や花を植え、歩道を整備して、公園を作りました。彼らは自分たちが手がけた公園ができたことを大変喜んでます。

この公園は、故相川政夫が闘病中、最後の力を込めて書き上げた提案書により作られました。ラブグリーンスタッフが、「ネパールの村のことを考えて長年支援してきた人の最後のプロジェクトだから、自分たちはこの公園に特別な思いを持っている。この思いを汲んで公園を大事にしてほしい」と若者グループのメンバーに伝えました。彼らが責任を持ってこの公園の維持管理をしていきます。

7月からは、パンチカール市2区の人々と共に共有林への植林を開始しています。



■ イオン環境助成

事業名：コミュニティの緑化活動

2022年4月からもう一つ緑化プロジェクトが開始しました。6月5日の世界環境デーには、トゥリ共有林において、市長と副市長をゲストに迎え、共有林グループや女性グループのメンバーたちのほか、地元住民など80名が参加した植林イベントが行われました。菩提樹、クスノキ、ヒマラヤ桜、ジャカランダなど100本あまりの木々を植えました。苗木の種類については、共有林グループの人たちと話しあって決めました。



近くの軍の警察施設にも呼びかけて、その警察官にも参加してもらいました。コロナ禍が広まってから、多くの人を集めて世界環境デーのイベントをすることができなかったのですが、今年はようやく大勢集まることができました。

毎年の雨季に起こる土砂崩落を防ぐために道路沿いで植林も実施しています。

■ 地球環境基金 — 独立行政法人 環境再生保全機構

事業名：タハ市の里山における水と土の環境を次世代に繋げる活動（マクワンプル郡）
配分金額 400万円

3年目最後の年となる本事業は、これまでの活動のまとめを行う年となります。これまでは「ユースグループが川の清掃」「バザールの商店会がゴミ分別」「ホームステイ協会がホーム



ステイ」といったように、各々が持ち分の範囲内の活動をしてきましたが、今年度は「グループ間の緩やかな連携」を目指します。

8月にカトマンズの観光学部の学生を招いたスタディーツアーを開催しました。外部の視点を通して「今ある自然環境を守ることが、ツーリズムの魅力の一つとなり、地域活性化につながる」という共通認識を村人の中に育てることで、グループが自然に連携できるようにと企画したものです。

本事業は里山保全が大きな軸にありますが、住民たちが持続的に活動を続けていくためには、収入に結びつけることが重要と考えています。最終的にエコツーリズムと結びつけることで環境保全と観光を両立させ、さらに観光による収入の可能性を提示することで、環境保全に対するモチベーションを維持することがねらいです。

スタディーツアーに参加した学生の声

- この村の主な産業は農業で、パーマカルチャー（パーマネント：永続性、農業や文化：カルチャーから成る造語で、人と自然が共存する社会を築くためのデザイン手法）が印象的でポジティブに感じました。ここでの暮らしは地産地消が実践されていました。
- 15年ぶりに泥でできた家に寝る体験ができました。
- 学生である私たちは物質主義的生活をしていますが、このような文化を守ることがネパールの財産になると思いました。



■ 大学とのオンライン授業

毎年、ゼミ学生のスタディーツアーでお世話になっていましたが、この2年間、コロナ禍で中止していました。現地との交流による教育効果はとて高いと感じていたため、今年度はオンラインでネパールとゼミ生を繋ぐことにしました。7月に2回実施し、1回目は現地の農家の様子をビマルさん（ラブグリーンジャパン現地職員）が中継で説明し、学生が質問しました。2回目は、学生が栄養改善にむけた提案をプレゼンし、ビマルさんがコメントしてくれました。学生からは「実際に中継して向こうの様子を見るのは新鮮でした。」「最低限の衣食住が揃い、穏やかな農業を営む生活に美しさを感じました。」「その国の文化が生かされた生活を送ることは幸せだと思いました。」という感想がありました。現地とのオンライン中継は大きな問題もなく実施でき、初めて見るネパール農村の様子に学生は見入っていました。現地へのスタディーツアーが再開されても、事前学習としてオンライン交流の教育効果は有益だと思いました。

（文京学院大学外国語学部教員 甲斐田きよみ）

■ オンラインイベント SDGs よこはま City への参加

コロナ禍で大勢が集う対面イベントができなくなった中、オンラインイベントに参加することにしました。2月には、ネパールへのオンラインスタディーツアーを実施しました。農村の映像を収めたショートビデオを作成して、現地の活動地を案内しました。7月は、ネパールの農家を訪問して、現地スタッフが畑を案内して生中継しました。7月は雨季のため、天気によっては道路状態が悪く、村に行けなくなることもあります。またネパールの農村部は、まだ電波が安定しておらず、通信が途切れてしまうこともしばしばあります。懸案事項はいろいろありましたが、当日は問題なくつなげてホッとしました。

対面イベントはそのイベント会場まで足を運んでもらわなければなりません。オンラインイベントは遠く離れた方でも接続時間さえあれば参加してもらえる良さがあります。少しずつオンラインを活かしたイベントを考えてみたいと思います。



= JICA マルチメディア教材「市民参加」にラブグリーンジャパンがとりあげられました! =

JICA が実施する NGO や自治体等各団体の規模や経験に合わせた市民参加スキーム（NGO 等活動支援事業、JICA 基金活用事業、草の根技術協力事業、NGO・自治体との連携）が紹介されています。その中の草の根技術協力事業パートナー型の事例として登場します。

これから市民参加事業に関わろうとしている方やどんな事業か知りたい方に、概要が分かりやすく説明されています。

Youtube で見ることができますので、ぜひご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=t-RN68nWWdM>



2021年10月～2022年9月の動き

- 2021年10月 18～12月10日 鈴木倫子 ネパール事務所駐在
- 2021年11月 14日 福島大学 金子信博教授による土壌保全に関するウェビナーの開催
- 2021年12月 切り干し大根の販売再開
- 2022年2月 沖縄ネパールプロジェクトよりパンチカールの小中学校に消毒液を配布
- 20日 オンラインイベント「SDGs よこはま City 冬」に参加
- 2022年4月 イオン環境財団による緑化・自然環境教育プロジェクトの開始
- 2022年5月 3日～6月30日 鈴木倫子 ネパール事務所駐在
- 2022年6月 5日 世界環境デー パンチカール市トゥリ共有林にて植林イベント開催
- 6日 かがしま有機生産組合によるオンライン農家訪問の実施
- 26日 ラブグリーンネパール創立30周年記念式典の開催
- 27日 パンチカール市ダナ・ラクシミ・エコパーク完成 譲渡式の開催
- 2022年7月 緑の募金事業「パンチカール市 地域住民と共に森づくり」開始
- 2日 オンラインイベント「SDGs よこはま City 夏」に参加
- 2022年8月 10日～9月27日 鈴木倫子 ネパール事務所駐在
- 17日～23日 名古屋大学 伊藤香純准教授による農村開発事業調査
- 2022年9月 3日～13日 文京学院大学 甲斐田きよみ准教授による農村女性調査
- 20日～23日 JICA 横浜による終了次評価(現地調査)



当会の日常的な活動については
フェイスブック <ラブグリーンジャパン> でご覧ください。

** 今年も切り干し大根つくります！ **
ヒマラヤの里の陽射しをたっぷり浴びた限定品。
ご購入をご希望の方は事務局まで！



積み上げてきた活動の成果を未来へ。

令和3年度 会費納入・募金ありがとうございました。

(2021年10月1日～2022年9月30日)

石原仁事務所/和泉田初代・好一/海老澤健/大石正子/太田輝/坂本洋子/本間ピアノ/ナカザワ包材(株)/久保田直也・洋子/高柳紘子/中澤正子/土岐操/成瀬章/望月よし江/黒川敏史/長谷川潤/佐久間潤/大堀研/飯島恭子/朝熊由美子/浅野久美子/平林繁/飯田よし江/三井良子/三田健一・悦子/福田克美/草野明子/吉井万里子/奥津良博/中澤庸真/蛭名喜代作/西村充弘/山下雅人/河野美穂/山本功子/仁科博道/田岡耕司/深江周平/中澤やす子/崎坂香屋子/山下恵子/鈴木勝雄・芳子/鈴木開・統真/相川明子/
タックインターナショナル

他：匿名希望の方 御礼申し上げます。(敬称略)

※イベントなどお手伝いいただいた方々、ありがとうございました。

昨年度は会費納入をお忘れの方がいらっしゃいました。

年に一度の会報でお知らせしております。

どうぞ、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

皆さまのご支援によって、私たちの活動は継続されていきます。

1口 5,000円 1口 以上をお願いいたします。

ご住所、お名前、電話番号、口数を記入して下記へお振込みください。

振込先 (郵便振替) 00250-3-76570

(銀行振込) 三井住友銀行 日比谷支店 普通 8044951

特定非営利活動法人 ラブグリーンジャパン

ご意見や感想なども、事務局へどしどしお送りください

編集後記

コロナ禍でネパールへの渡航ができなくなりましたが、昨年秋に再開しました。コロナ後初の渡航は、コロナ対策などこれまで通りとは違い、とても緊張しました。春、夏と渡航を重ねるうちに規制も緩んできて、世界はもう普通に動いているんだなと実感します。

インターネットの発達で、現場のスタッフともオンラインでミーティングもできれば、現地の農家との中継も可能となり、家にいながら、現地とつながることができるようになりました。けれども、実際にネパールの村の空気を感じて、人と顔を合わせることは、伝わるものが大きく違います。また、多くの人がネパールに来てくれるといいなあと思います。

SUZ